2016〈第9号〉

兵庫県医師連盟ニュース

index

■連盟委員長挨拶
■［お願い］自見はなこサポーター名簿獲得について
■兵庫県医師会主催新年祝賀会
■議員対談　衆議院議員　西村康稔氏
■郡市区医師連盟だより

発行所　兵庫県医師連盟
〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11
Tel 078－231－4114
http://www.hyogo-ishirenmei.jp
編集責任者　川島　龍一

医師連盟委員長挨拶

兵庫県医師連盟
委員長　川島　龍一

今夏実施される参議院選挙に向けて、兵庫県医師連盟もいよいよ最終的な自見はなこ支援体制作りに向けての活動を活潑化させねばなりません。現在医師連盟に加入の先生方は兵庫県には3，608名いらっしゃいますので、連盟会員の先生1名につき、ご家族やスタッフにお声掛けしていただき5名の支援者を確保していただきますれば1万8千の集票が可能となりますし、医師会員全員がご自身を含めご家族3名で投票賜りますれば約3万票確保できます。

「何票獲得して当選してきたか」自らの集票力は自民党内や国会の場での発言力に大きく影響いたします。

地域医療構想策定による医療費削減計画、医療の規制緩和による医療の営利産業化、医療情報利活用による管理医療・管理社会の実現等々を国、各省庁をあげて推進しつつある今日、我が国が誇る国民皆保険制度は崩壊の危機に立たされています。これら誤った政策を正し、国民の為の公平・安全・高質な医療提供体制を確保させ、「医療はコモンズに基礎付けられた社会的共通資本である。（宇沢弘文先生）」が故に、医療は市場原理にも、又、官僚支配にもなじむものではないことを国に認識させるために、医師でしかも地域の現場で医療を実践してきた方が国政に参加する必要があります。

自見はなこ候補は小児科医師として地域医療の充実に汗を流してこられた経験も豊富であり、若き女性勤務医から見た地域医療提供体制の在り方もしっかり提言できるものと期待されます。これまでの日本医師連盟の組織内候補者とは異なる層からの集票も可能な方であり、女性医師の会の先生方も絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、全会員一致団結し自見はなこ候補の高得票当選を目指していただきますようよろしくお願い申し上げます。

お　願　い

自見はなこ サポーター名簿 獲得について

我々の代表者として、自見はなこ氏の多数票獲得による参議院議員選挙当選が必要です。しかも、日本の医療を堅持して日本医師会の主張を堂々と政治の中で反映させていくためには、高位での当選が不可欠です。

特に投票活動に一番結びつくといわれているのがサポーター名簿獲得活動です。

先生方には、是非とも活動にご協力下さるようお願いいたします。

兵庫県医師会主催 新年祝賀会 盛大に開催される

平成28年度の県医師会主催の新年祝賀会が、1月11日ポートピアホテルにて開催された。午前11時から恒例のごとく横倉日本医師会会長の講演が行われた。かかりつけ医の重要性、および診療報酬改定時における日本医師会の重要性をわかりやすく話された。その後、新年の祝宴が開催された。横倉日本医師会会長や三副会長、常任理事、また近畿、関西の各医師会長、今回は東京や福岡の医師会長が参加された。政界からは、井戸兵庫県知事や久元神戸市長、県選出衆議院議員、参議院議員、県会議員が多数参加。県歯科医師会、薬剤師会、看護協会、県行政をはじめ各種関連団体から多数の方が参加された。郡市区医師会員を含め、四百人を超える参加者があり、政界、行政、各団体に、我々県医師会の力を誇示できた。

羽生田議員

自見氏

自見氏挨拶回り

兵庫県選出の国会議員の皆様

県議会議員の皆様

圏　域　の　皆　様

明石市医師連盟

橋本 寛 × 西村 康稔

議談対員

衆議院議員（第9区）

Hiroshi Hashimoto　Yasutoshi Nishimura

年の瀬も押し詰まった12月19日の午後、兵庫9区選出の自民党西村康稔（やすとし）代議士との対談の機会を得ました。以下はその対談要旨です。

橋本（以下橋）「西村さんは第二次安倍内閣発足以来2年10か月の間、内閣府副大臣としてTPP、防災、経済政策などを担当され、この秋からは自民党のTPP対策事務局長、一億総活躍本部事務局長に就任されました。また1月の国会からは内閣委員会委員長に就任されます。早速ですが長らく関わってこられたTPPの話からうかがいます。まず日本がTPPに参加するメリットを教えてください。」

西村（以下西）「はい、これから日本は急速に超高齢、人口減少社会が進行しますが、社会保障安定のためにも経済成長は必要です。しかし、国内の需要、消費は人口減少により落ち込むことが予想されますので海外の成長を取り込まざるを得ません。その際に太平洋を取り巻く国々と同じルールで貿易、ビジネスをすることは大変重要です。これは関税の事だけでなくサービスに関するルールも共有し日本の企業が海外に展開しやすくすることも含まれます。」

橋「TPPに関しては海外の企業が日本に入ってきてやりたい放題になるのではないかという危惧を煽る報道がありますが、実は日本の企業の海外展開にはメリットが大きいということですね。」

西「そうです。例えば知的財産権の保護を通して勝手にコピー商品を作れないし、海外に工場を建てるときも突然土地を没収されたり、自国の企業に技術情報の開示を求められるということも無くなります。」

橋「我々は医療本体もがビジネスとなっているアメリカの大手病院チェーンが日本の市場を狙って来るだろう、その時に公的医療保険制度が参入の妨げになるので提訴され、皆保険制度が無くなるかもしれないと心配していますがそれはどうですか。」

西「医療関係者の方々には大変ご心配をおかけしましたが、社会保障制度に関しては対象外となり日本の医療制度を変えることはありません。自民党の中でも日本の皆保険制度を変えようなどと考えている人はいないと思います。私など逆に日本の皆保険制度を見習えとアメリカに言いたいくらいです。それと食品の安全に関しても日本の規制は変える必要がありません。例えば遺伝子組み換え食品の表示は日本では義務ですし、これはそのままで、むしろ強化することも考えています。」

橋「このTPPの隠れた目的は国包囲網を作ることだとも言われていますね。」

西「南沙諸島を巡る中国の行動を見てわかるように彼らはルールを自分たちで勝手に決め正当化してきます。ビジネスの世界でもアジアのみならず世界中で中国の存在は大きくなっています。彼らは自分たちのやり方を世界ルールとしたいようですが、これに歯止めをかけるためにTPPが必要だとオバマ大統領が言っています。オバマ大統領は南沙諸島を巡る習近平の態度には相当頭に来たようです。安倍総理はもう少し慎重な言い方をされていますが。」

橋「環太平洋の国々が連携し同じビジネスのルールを作れば中国といえども勝手なことはできないということですね。ところで西村さんの選挙区でもある淡路島には畜産農家がありTPP参加によってダメージを受けるのではないですか。」

西「淡路でも黒牛と言って神戸牛などの元祖と言って良い良質な肉牛を育てている所は十分競争力があり心配ありません。ただこれらの畜産農家は規模が小さく、後継者不足という別の問題があります。」

橋「肉牛と言えばオーストラリアの方がアメリカ牛より安く競争力がありますね。」

西「そうです。乳製品ではニュージーランドに競争力があります。実は畜産の交渉ではアメリカと日本が連携してこれらの国と交渉する場面もありました。」

橋「アメリカのフロマン通商代表はオバマ大統領とハーバード法科大学院の同級生で元シティーグループ出身のタフネゴシエータだと聞きます。西村さんは甘利大臣の代理としてTPP交渉の現場にも出られていますがフロマン氏の印象はどうですか。」

西「大国アメリカを体現しているというか、アメリカが一番という態度で交渉に臨んできます。例えば夕食会で我々は代表だけしか席がないのにアメリカのフロマンだけが主席交渉官を臨席させて色々ペーパーを出して来たりするので、私からアメリカだけなぜ交渉官を臨席させるのか不公平だと言ったら他の国の代表から拍手が起こりました。他の交渉参加国は小国が多く、やはり大国アメリカに遠慮しているようで日本が入ってくれてよかったという声は多く聞きました。」

橋「中国に抜かれたと言っても世界3位の経済大国ですからね。ところで今回、自民党のTPP対策事務局長となられたわけですが党内の農林族議員との調整、選挙区に農家を抱える議員さんとの調整は大変ですね。」

西「自民党の農業政策もかつてのように補助金をばらまくのではなく、農業の将来を見据えた政策を展開する方向に変わってきました。小規模で高齢化が進む農業に補助金だけでは将来はありません。規模を大きくすることやブランド化などの戦略が必要です。幸い2年以上内閣府にいたので色々な問題に対してどこを動かせばよいのかはわかっています。それもあって党内の調整役に任命されたと思います。」

橋「ここで医療の問題に戻りますが政府の産業競争力会議に竹中平蔵氏が入っています。彼は小泉政権時代から医療の規制緩和、産業化を強く主張してきた人物で医師会が最も嫌う人物です。何故彼が起用されるのですか。『市場と権力』という本を読むと彼は学者ではなく、経済学を手段として自己の利益と権力保持に使っているとしか思えません。」

（四面につづく）

（三面より）

西「竹中さんを嫌う人は自民党内にもいますが、彼は独自のネットワークを通じて海外の情報を多く持っていて、よく整理して話をされますので・・・。」

橋「そんな舌先三寸に洗脳される議員が多いということでしょうか。」

（この後しばらく竹中平蔵批判が10分以上続き西村議員も苦笑い）

橋「ここで消費税に話題を変えます。安倍総理は消費税10％までで、それ以上は必要ないと言っておられますが今後の社会保障の財源はどうするのですか、とても足りないと思いますが。」

西「今は10％までしか考えていないということです。分配政策は必要ですが経済成長がないと税収も伸びず分配もできません。」

橋「法人税は下げることとなりました。ではどこから税収を得るのですか。所得が上がれば税収は伸びるでしょうが今は大企業以外では賃金が上がらずその結果、消費も伸びてないのでは。」

西「確かに大企業の賃金は上がり、さらにパート労働者も人手不足で賃金は上がっています。問題は中小企業の賃金です。大企業が下請けの中小企業からの納品価格の値引きを求める限り賃金は上がりません。これを何とかしなければならないと考えています。」

橋「賃金と言えば公務員の給与カットを言い続けている政党が大阪にあって何故か安倍総理とは仲が良いようです。今度新しくできた大阪維新の会をどう見ておられますか。」

西「リーダーであった橋下さんはカリスマ性があり行動力は評価しますし、改革の姿勢は共通できる点も多いのですが、個別の政策となると我々の考えとは一致しない点も多くあります。」

橋「彼らの医療に関する政策は新自由主義そのものですね。」

西「そうですね、その点では一致しませんね。」

橋「我々も維新の考え方や政策にはとても同調できません。ポピュリズム政党だと思います。ところで自民党一億総活躍本部事務局長も兼務されますが、一体何をされるのですか。」

西「内閣には一億総活躍担当大臣もおられますので、私は党の側の取りまとめ役です、言わば党と内閣の橋渡し役です。具体的にはまず介護離職ゼロを目指していきます。出生率1．8％も目指しますが、こちらの方がハードルは高いと思います、少子化の最大の原因は結婚しない若者が多いことですから。」

橋「婚活しか具体策が浮かびませんね。姫路市医師会は婚活をされていますよ。」

西「それは良いことですね。」

橋「最後にマラソンの事を伺います。西村さんは今年の神戸マラソンも完走されましたね。」

西「今年で3回目の完走です。今年は4時間37分でした。」

橋「完走後に結婚披露宴に出てさらに選挙応援にも行かれたそうですね。」

西「はい、さすがに疲れました。でも最初に完走した時は一週間、階段を上り下りするのも足が痛くて大変でしたから、今はそんなことはありません。」

橋「いつどこで練習をされるのですか。」

西「国会内にジムがあって週に2～3回は30分くらい走っています。元々は健康のために始めたのですが、実際にγGTPの値も下がり4年間で約8キロの減量もできました。走り続ける目標として神戸マラソンに参加しています。」

橋「マラソンは結構事故もあります。これからも健康に気を付けてご活躍下さい。」

郡市区医師連盟だより

【尼崎市医師連盟】

尼崎市民医療フォーラムを行う前に、平成27年10月3日の夕刻より尼崎市の日本料理店・割烹若松にて尼崎市医師会理事と医政委員会を中心としたメンバーで衆議院議員中野洋昌さんを囲み、懇談会を行いました。フォーラムにシンポジストとして参加予定の中野議員との打ち合わせを兼ねるとともに、行政の考えなどを伺う良い機会となりました。今国会では安保についての討議が多忙を極めた為に中野議員が厚生労働委員を務める機会に恵まれるも、リリーフ的な役割であったので一時的なものになってしまいました。しかし、来期は公明党のなかで厚生労働委員の役が回ってくるとのことで、個人的には大いに期待したいと思います。今回の医療フォーラムのテーマは「認知症」であったのですが、やはり地域医療包括ケアとは切り離せないとの互いの認識のもと「地域医療包括ケアシステムについては地域ごとに状況に合わせて運用していく必要があると考えられているが、地域ごとの違いがあまりにも大きい為にどの様に運用していくか調整しつつある段階」との意見を伺いました。そして、10月24日にあましんアルカイックホール・オクトで行われた「尼崎市民医療フォーラム」では569人という過去最大の参集があり、認知症に対する市民の関心の高さが伺えました。フォーラムにシンポジストとして参加していただいた中野議員には、シンポジウムの前にご挨拶頂きました。「今国会では安全保障が大きなテーマとなったが、自分は厚生労働委員として社会保障について国会で議論し、今こそ社会保障に力を入れないといけないと確信した。また、総理の示したアベノミクス新3本の矢は①GDP600兆円②希望出生率1．8％③介護離職率ゼロで、総理は安心して暮らしていける社会保障に力を入れていくことこそが、日本の底力を上げていき日本を支えていく柱だと考えておられる。」とご意見されました。認知症の国家戦略について「団塊の世代が75歳以上の高齢者となる2025年に向けて7つの柱からなるオレンジプランなる構想があるが、認知症対策としては①2018年までに全ての市町村に認知症の初期対応が可能な初期認知症集中支援チームを整備②地域での支援を目指し認知症に対応できる認知症サポーターを全国で800万人程度育成する③認知症に対する薬剤などの研究・開発3項目が挙げられる。また、この様に国として体制を作っても、地域ごとの違いがあるので、地域での体制を作る必要がある。」と述べられました。中野議員をはじめ国立長寿医療研究センターの櫻井孝先生・コラムニストの勝谷誠彦さん・医師で認知症サポート医でもある中川純一先生・ケアマネージャーの山福尚子さんを交えてのシンポジウムでは、実地での体験談を例に認知症の早期発見や早期対応の難しさが挙げられ、地域としての対応の必要性と重要性が議論されました。また、尼崎市における認知症対策の現状と今後の方向性についても語られ、集まって頂いた市民の皆さんにとって分かりやすい内容であったかと思います。今回の医療フォーラムは、市民を交え医療介護の現場・学識経験者・行政の交流として大変有意義な時間となりました。